

西洋建築の影響を受けた建物や、今も人々の道しるべとしての役割を担っている建物を紹介します。



和と洋を組み合わせた屋根も特徴

— キャラハン邸

日本の大工が建設した洋風住宅

明治13（1880）年にアメリカ人宣教師、キャラハンの指導により、中津市に建設されたアメリカ式の住宅です。平成5（1993）年に、現在の日本文理大学構内に移築されました。建物は、木造瓦葺寄棟の2階建てで、屋根にはれんが造りの煙突が3本備わっています。緑色のよろい戸や角の2面に設けられた格子窓が洋風の雰囲気

を醸しています。

DATA ○所在地 一木1727

— 関埼灯台

100年以上の歴史を持つ
豊後水道を眺める灯台

関埼灯台は、愛媛県の佐田岬灯台と向かい合う形で、明治34（1901）年に設置、点灯された大分県最古の灯台。建物は鉄造で、灯台特有の白塗りの外観は、青空と海によく映えます。平成21（2009）年には光源がLED化されました。潮の流れが早い豊後水道を航海する船乗りたちの道しるべとして、今も光をともし続けています。

DATA ○所在地 佐賀関



レトロな雰囲気の風向計

— みずほ銀行大分支店

直線と幾何学模様が特徴
希少なアールデコ様式の建物

旧大分県農工銀行として、昭和7（1932）年に建てられた、鉄筋コンクリート造2階建ての建物です。設計は、大阪を拠点に活躍した建築家、国枝博。柔らかなカーブを描いた外観には、直線の切り込みや洋風の華やかな幾何学模様が随所に散りばめられています。アメリカンスタイルのアールデコ様式の建物は現存するものが少なく、大変希少とされています。

DATA ○所在地 都町二丁目4番



花を模したレリーフ

大分市に点在する建物 その歴史的価値とは

大分市は、建築物を見て回るとはとても良い場所です。赤レンガ館や後藤家住宅などの100年以上前に建てられたものから、大分県立美術館（OPAM）に代表されるような新しい建物もあり、全国から注目を集める魅力的な建物が増えてきているといえるでしょう。

文化財の側面であれば、上八幡にある杵原八幡宮も国の重要文化財。宇佐市にある宇佐神宮の本殿とほぼ同じ造りの八幡造り（はちまんぞう）で、棟が2つ寄り添って建てられた全国的にみても大変貴重な建物です。



大分県立美術館（OPAM）

また、帆足本家のある戸次本町では、江戸時代末期から戦前にかけて繁栄した頃の歴史的な街並みや地区固有の伝統的な文化を生かして、まちづくりに取り組んでいます。

大分市には、ある特定の時代の建物ではなく、さまざまな年代の建物が各所に残っていて、バリエーションが豊富なんです。さらに、アートプラザなどを設計し、ブリッカラー賞の受賞が決まった磯崎新さんや、同賞を受賞しOP



杵原八幡宮の八幡造り

AMを設計した坂茂さん、今年行われるラグビーワールドカップ2019™日本大会の試合会場となっている大分スポーツ公園総合競技場を設計した黒川紀章さんなど、世界に名だたる建築家が設計した素晴らしい建物が点在しています。これは大分市が持つ大きな魅力だと思います。建物というのは、価値があるからこそ残っていきます。市内にある歴史的な価値のある建築物を通して、郷土愛が芽生えてくれればいいなと思います。

大分市の歴史的建築物を巡るなら

おおいた文化遺産 市内探索マップ

市内の文化遺産を7つのテーマに沿って掲載したガイドブックです。今回紹介した建築物のほか、大分の文化や歴史などを知ることが出来る一冊です。文化財課（第2庁舎6階）、南蛮BVNGO 交流館（顕徳町三丁目）で入手できます。



問 文化財課 ☎537-5639